

試験所試作品パイロット事業

「テーマ …… 食卓を彩る竹の器の開発」

はじめに 最近のトレンドに「グルメブーム」、「和食の復権」、「懐石風料理」、「ホームパーティ」等があり、食も量から質へと移り、演出を重視するように変化している。(図1参照)

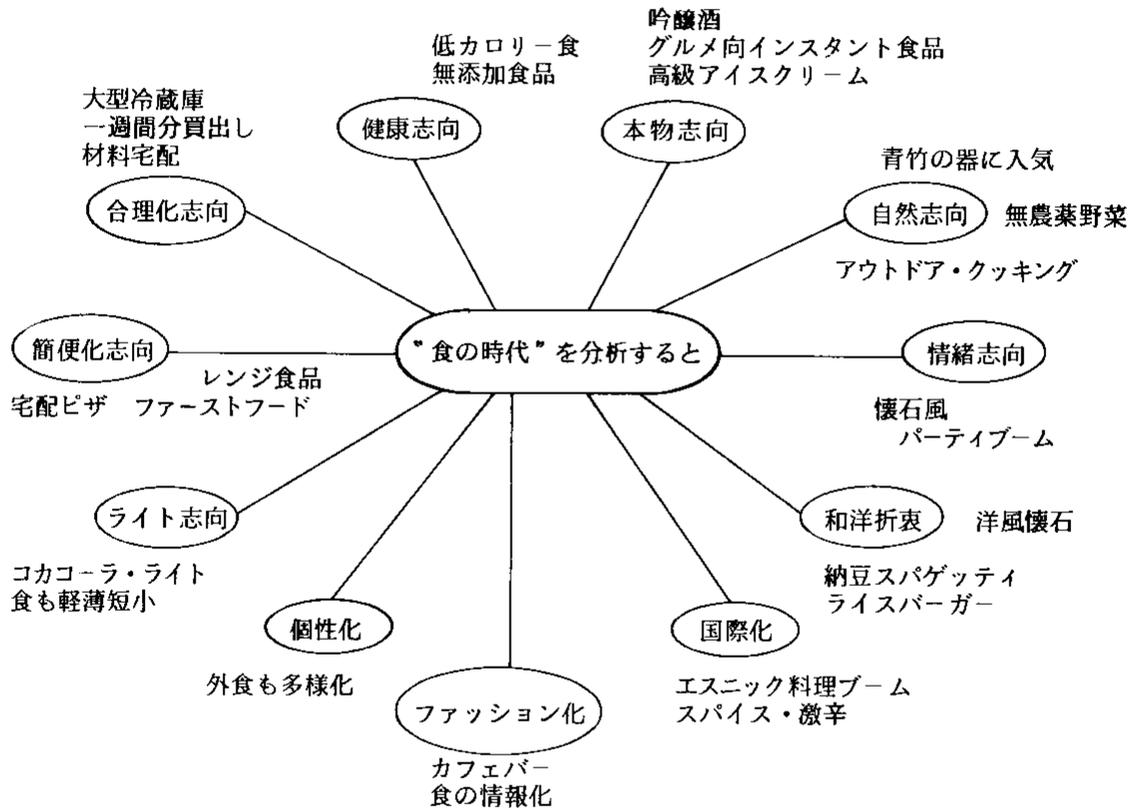


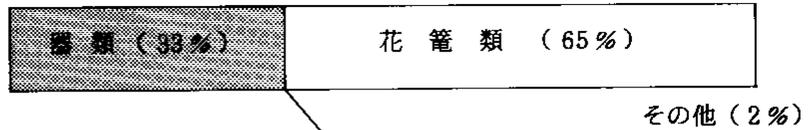
図1. “食の時代”のトレンド

それに伴って、竹の業界も業務用食器類が伸びているようである。

(図2参照)

そこで、本年度のパイロット事業は「食卓を彩る竹の器」をテーマに商品開発を行なった。

● 昭和 57 年（5 年前）



● 昭和 62 年度

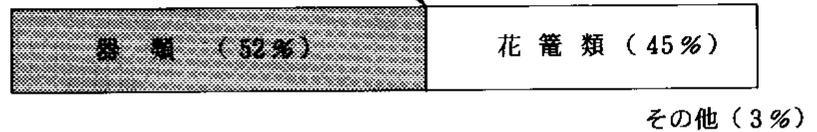
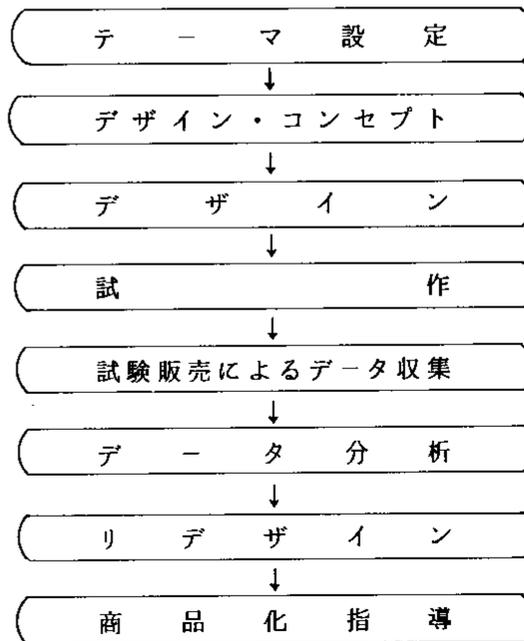


図 2. 別府竹製品の品種比率の変化（A社の例）

内 容

本事業はテーマに基づいてデザインしたものを、一定数量試作し、東京などで開催する展示会場において試験販売を行なう。そして売行きやアンケート等から消費者の反響をつかみ、それをもとにリデザインし、業界に技術指導をして商品化に結びつけるという内容である。

流れを簡単に図示すると次のようになる。



コンセプト

図1で食の分析を行なったが、最近の特質として「食の演出」、「本物志向」、「自然志向」、「情緒志向」等が見られる。

それを踏まえて、

- 新しいスタイルの竹の器の提案
- 機能+食卓の演出
- 収納、運搬等への配慮
- エレガント、シックなイメージで“おしゃれ”な感じ

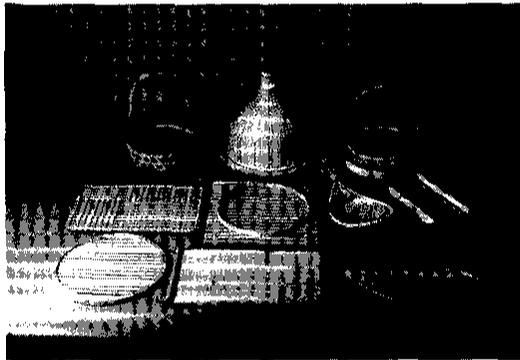
の4点をコンセプトの柱とし、デザイン・試作を行なった。

デザイン・試作

コンセプト及び食の傾向に基づき、食卓の場面を想定し、10品種をデザイン・試作した。(写真参照)

特に、収納、運搬等への配慮というコンセプトに沿って、柄の付いたアイテムは分解できるよう考慮した。

また、それぞれの品種には個有のイメージを持たせ、ネーミングを導いた。



試験販売及びアンケート調査

試作品に対する消費者の反響を調査するため、下記展示会場において試験販売を実施すると共に、来場者にアンケート調査を行ない、商品化していく上でのデータとした。

- (1) 展示会名 …… 大分の竹と木のクラフト展
会 期 …… 昭和63年7月8日～20日
会 場 …… 東京・銀座「松屋」クラフトギャラリー
アンケート調査数 …… 118枚
- (2) 展示会名 …… '88 別府のクラフト展
会 期 …… 昭和63年5月12日～16日
会 場 …… 丸善名古屋栄店
アンケート調査数 …… 192枚

食器に関する

今回は、竹の食器をテーマに商品開発を行いました。いかがでしょうか。今後、皆様の御意見を聞いて、より良い商品作りを進めていきたいと思っておりますので、アンケートに御協力をお願いします。

質問 1. 年齢と性別をお願いします。

年 齢	歳	性 別	男 ・ 女
-----	---	-----	-------

質問 2. あなたの好きな料理は何ですか。

--	--	--

質問 3. 1か月間に何回位、外出に出かけますか。

	回
--	---

質問 4. 外出の際に出て来た器で、「いいなあ」と思うようなものがあたらどんなものだったか、簡単に書いて下さい。

質問 8. このコーナーの商品で気に入ったもの2~3点位に○印をつけて下さい。また、気付いた点や改善すべき点があれば、ひとことお願いします。1つでも2つでも結構です。

	フレア・プレート	いざよい	魚 菜	水 月	木 の 葉
					
○ 印 を					
ひとこと					

御協力ありがとうございました。粗品をお受取り下さい。

ア ン ケ ー ト

質問 5. 自分の家庭の食器棚に揃えたいなあとと思っている器はどんなものですか。

質問 6. 家庭に竹の食器はありますか。ある人はどんなものですか。

あ る	な い
-----	-----

ある場合

質問 7. こんな竹の食器があたらいいのというアイデアがあればお書き下さい。

や な	清 流	方 丈	摘 み 菜	早 苗 籠
				

大分県別府産業工芸試験所

調査結果

前記アンケートの主要部分である質問8の集計結果を分析すると、特に好評であったのは摘み菜、魚菜、フレアプレート、やなの4品種であった。(図3参照)

- ・摘み菜 - やさしい感じで応用がきき、分解できるため収納に便利
- ・魚菜 - 形がおもしろく食卓が楽しくなる
- ・フレアプレート - 曲線が美しく、楽しい雰囲気
- ・やな - 涼しい感じで夏に合う

以上の点で好評だったが、まとめると「収納しやすさ」「食卓の楽しい演出」「季節感」を消費者は食器に対し望んでいることがわかった。

また、フレアプレートは福岡で開催されたPAK '88展でPAK推薦賞を受賞し、デザインが高く評価された。

さらにフレアプレートの編目をあけて軽い感じを持たせたものと、大きいサイズのものという意見が多く出されたので、リデザインして商品化を行なった。

考察

竹製食器は実用的使い方より演出的使い方の方が適しており、家庭より料亭などの業務用として多数出まわっている。

今回の開発は業務用を意識して行なったわけであるが、一般家庭でも食卓の演出には強い関心を持っており、一般消費者の竹の器に対する需要は期待できることがわかった。

今後、アンケート結果等のデータを参考に、さらに新しいスタイルの竹の器を考えていきたい。

図3. アンケート質問8の集計表 (好評回答数)

